

# 県外派遣審判員報告書

作成日 H31年 4月 30日

大会名	南九州四県対抗バスケットボール大会	会場	熊本農業高校、開新高校
期間	4/28、29	報告者	加美翔平

## レクチャー・審判会議の内容

今大会のコーチ、プレイヤー、チーム全員がJBAのインテグリティの精神に基づきクリーンなゲームになるように協力していくことの伝達がありました。

実技	割り当て	れいめい(鹿児島)ー延岡学園(宮崎)	U1	相手	徳丸氏(B級熊本)
----	------	--------------------	----	----	-----------

### ○ゲーム前(プレカンファレンス)

プライマリーの確認、エリア3、4についての受け渡しアウトオブバウンズの協力の確認、チームの特徴を共有した。

### ○ゲームの実際

前半から延岡学園のインサイドを中心としたオフェンスに対してれいめいがどのように守るか丁寧に判定した。後半は交代で変わって入る選手に対してもっと判定するべきだったが1試合を通して2人で協力してゲームを進めることができた。

### ○ゲーム後(ポストカンファレンス) 主任 佐田氏(大分A級)

プレゲームカンファレンスでもあったように2人でコミュニケーションをとりながら1試合を終えることができた。しかし、留学生が制限区域内にとどまることが多く3秒バイオレーションを気をつける必要があった。または声をかけることで防ぐことができればさらに良かった。トレールにいる時に、目線だけが動いたり同じところを見ていたりする時間がありトレールではもっと足を動かして見に行くようにしていく必要がある。フラッシュをする手の左右を考えてほしい。

実技	割り当て	別府溝部(大分)ー宮崎北	U1	相手	井元氏(A級熊本)
----	------	--------------	----	----	-----------

### ○ゲーム前(プレカンファレンス)

プライマリーの確認、エリア3、4についての受け渡しアウトオブバウンズの協力の確認、チームの特徴を共有した。

### ○ゲームの実際

両チームの選手が前半からクリーンなバスケットを展開し、自分も井元氏のテンポにうまく乗ることができた。前半から留学生の制限区域内にとどまることがあり、自分が前半にバイオレーションをとることができなかった。後半宮崎北の選手にフラストレーションをためさせてしまった。

### ○ゲーム後(ポストカンファレンス) 主任 島本氏(熊本B級)

前半で3秒バイオレーションをとっていれば後半に宮崎北の選手に警告が出ることはなかったのではないかと。トレールにいるときに足を動かして、どこをとらえているかを相手レフリーに示すことができるとよい。また、レポートをするときにもっと大きな声でレポートを。

実技	割り当て	熊本国府ー小林(宮崎)	CC佐田氏(大分A級)U1東郷(宮崎B級)
----	------	-------------	-----------------------

### ○ゲーム前(プレカンファレンス)

プライマリーとアングルを確認。3POメカニクスの確認。ガイドラインを確認しました。映像を使って3人で情報を共有しました。

### ○ゲームの実際

ゲーム序盤からダブルホイッスルがなってしっかりとアイコンタクトをしてレポートまでいけることができスムーズにゲームに入ることができた。その中で両チームのインサイドのポジション争いに目をあてていこうということで話をしていたがなかなかペイント内をクリーンにすることができなかった。メカニクスが崩れるシーンが何度かあったがアイコンタクトをしてメカが崩れるのを防ぐことができた。

### ○ゲーム後(ポストカンファレンス) 主任 中村氏(熊本B級)

前半から気になったのはインサイドのポジション争いとその後のリバウンド争いの手の使い方、もっとクリーンにするべきだった。3人でメカが崩れそうになった時にしっかりアイコンタクトをして対処できていた。

実技	割り当て	熊本工業一川内(鹿児島)	CC野田氏(A級熊本)U1澤邊氏(B級熊本)
----	------	--------------	------------------------

○ゲーム前(プレカンファレンス)

プライマリー、アングルの確認、3人でのコミュニケーションをとっていくこと、また課題にしていることを共有しました。チームの特徴を共有した。

○ゲームの実際

両チームの選手が前半からクリーンなバスケットを展開していた。その中で、さらにインサイドの攻防をクリーンにしているという話があった。EOQ、EOGで誰が時間を持つのかしっかりと管理できていた。しかしゲーム中盤にアウトオブバウンズに自信がなくなった時間帯があってしまった。

○ゲーム後(ポストカンファレンス) 主任 岩尾氏(熊本A級)

まず、テクニカルがコールされた際に他のレフリーが次のフリースローの準備がもたついていた。選手はルールをなかなかわかっていないこともあるのでスムーズに移行できるように準備する必要がある。またフラッシュをする際にもう少し予測しながら慌てずに行えると良い。

全体を通しての感想

二日間を通して男女2試合ずつ割り当てをいただき大変収穫の多い大会となりました。メカニクスの部分ではこれまで県内の研修会で学んできたことを活かすことができた部分と新たに見つけた課題がありました。しかし、今まで課題としていたリードでの積極的にローテーションを起しセンターを押し上げるようなケースで決断が遅れてしまうことがあり、なかなか改善できていない課題であることを認識しました。一方で、ゲームを通してどのようにして判定するための材料を集め、決断をするかよりいっそうの努力が必要であると感じました。いよいよ迫っているインターハイの最終審査で今回の経験を活かし、課題を改善して臨めるよう努力していきたいと思えます。

最後になりますが今回、本大会に推薦していただいた原田審判長、お世話になりました熊本県審判委員会の皆さんに感謝申し上げます。ありがとうございました。